



# 田んぼわらしの ささやき

## 田んぼ 10年だより

第5号

2016. 3. 5. 発行

田んぼの生物多様性向上10年(略称: 田んぼ 10年)ニュースレター  
 発行: NPO法人ラムサール・ネットワーク日本(ラムネットJ) 水田部会  
 所在地: 〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 3F  
 TEL/FAX: 03-3834-6566 電子メール: info@ramnet-j.org  
 ホームページ: http://www.ramnet-j.org

### 目次

#### 田んぼ 10年集会報告

- ① 田んぼと生きものにより育まれる交流の輪で「地域を元気」に！ 青田朋恵 ..... 1
- ② にじゅうまるCOP2「田んぼ 10年」分科会報告 原野スキマサ ..... 2
- ふゆみずたんぼを活用した環境学習 NPO 法人田んぼ 吉田善広 ..... 3
- Series 各地の活動紹介** 見沼保全じゃぶじゃぶラボ 中島 望 ..... 4
- 「田んぼ 10年」参加者アンケート結果と中間評価まとめ / 水田部会からのお知らせ ..... 4

\* \* \* \* \*



### 報告① 田んぼと生きものにより育まれる交流の輪で「地域を元気」に！

～田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクト交流会・琵琶湖～ 滋賀県職員 青田 朋恵

#### ◆はじめに◆

今年1月22日、23日の2日間にかけて、ラムサール・ネットワーク日本(以下RNJ)主催によるICEBA2016プレイベント・ラムサール条約世界湿地の日参加イベントとして標記の交流会が開催されました。RNJは、愛知ターゲットの達成目標年である2020年に向けて、水田の生物多様性向上を目指す「田んぼの生物多様性向上の10年プロジェクト」行動計画を作成し、具体的な取組内容を提示し、それを実践する仲間の拡大と情報の共有を目指して活動されています。

この度の交流会は、琵琶湖周辺の田んぼで滋賀県が地元住民の方々と連携して実践している「魚のゆりかご水田」の活動に着目して実施されたものです。

#### ◆魚のゆりかご水田の活動とは◆

かつて琵琶湖にすむニゴロブナやナマズなどの湖魚は、産卵のために琵琶湖周辺の水田を目指して琵琶湖から遡上し、水田で育った稚魚は排水路を通じて、再び琵琶湖へ流下していました。琵琶湖周辺の水田は、水温が高く、稚魚にとってはエサとなるプランクトンが豊富でブラックバスなどの外敵に狙われることのない「ゆりかご」のような環境でした。

しかし、昭和40年代から始まった琵琶湖岸の開発や、ほ場整備などにより、琵琶湖と水田の魚類の移動経路が切断され、魚たちの産卵の場所が失われ、これまで水田地帯で見ら

れた生物の多様性(にぎわい)が失われてしまいました。

そこで、滋賀県では平成13年度から農家などと連携して、魚が水田まで自然に上れるような「水田魚道」をつくり、人と生きものが共生する本来の姿をもう一度取り戻そうと「魚のゆりかご水田プロジェクト」をスタートし、これを核とした「農村地域の活性化」を目指して、現在では約100haの水田で実践しているところです。

#### ◆田んぼの10年プロジェクト交流会・琵琶湖について◆

今回の交流会の現地フィールドとなった野洲市須原の「せせらぎの郷」は、ブランド米である「魚のゆりかご水田米」をPRするために「オーナー制」を導入するなど、県内だけでなく琵琶湖の水を飲む京阪神や、東京などの消費者に向けても毎年ファンを増やしています。

また、一昨年から「魚のゆりかご水田米」を使ったお酒づくりに取り組み、「月夜のゆりかご」と命名されたお酒は大好評です。また最近では、韓国など国外にもさらに交流の輪を広げるなど、県内の活動組織のトップランナーとして、絶えずチャレンジしている組織です。

交流会初日は、野洲市須原で、琵琶湖周辺の稲作農家の方々を中心に、生きものを育む田んぼでのコメづくりなど、地域での実践活動について、話題提供いただき、その後、3つのグループに分かれてワークショップが行われました。



魚のゆりかご水田米



【1日目】現地研修



【2日目】基調講演



【2日目】集合写真

前向きなキーワードが出る一方で、環境と経済の両立が難しいことや農村の高齢化や後継者不足、国政に大きく影響を受けることなど、様々な課題も出されました。

こうした1日目の課題を受けて、2日目は、琵琶湖の恩恵を受けている京都市内の会場で、生産者だけでなく、消費者や行政、研究者など多様な方々を交えて、それぞれの立場で何が出来るかなどが話し合われました。基調講演では、前滋賀県知事で現在びわこ成蹊スポーツ大学の嘉田由紀子学長から「滋賀県の挑戦～琵琶湖の生物多様性と農業～」をテー

マに戦後の琵琶湖を取り巻く大きな課題と、それを解消するための幾つものチャレンジなどが語られました。

その後のパネルディスカッションでは、会場の参加者も巻き込んで、ラムサール・ネットワークのご協力を得て、もっとグローバルに、国際的な視点で活動を広げていくことや「魚のゆりかご水田」のメッセージがもっと伝わりやすいネーミングはないか・・・など、様々なアイデアや意見が出されるほか、研究者から、新たな情報を得ることが出来るなど、大変実りの多い、HOTな交流会でした。



## 報告② 2020年までに田んぼ10年に500登録を！ にじゅうまるCOP2「田んぼ10年」分科会

BIB 原野スキマサ

2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(CBD-COP10)で、「愛知ターゲット」が採択されました。これは「2020年までに、『生物多様性の損失を止めるための行動をとる』こと」を全体目標とするもので、その実現のために20の目標があります。この「地球と生命のための20の約束」をすべての人に知ってもらい、立場を越えてつながり、行動するために作られたのが「にじゅうまるプロジェクト」です。

ラムネットJは、にじゅうまるプロジェクト発足当初から運営にかかわっていて、「田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト」はそのサテライトプロジェクトの1つです。

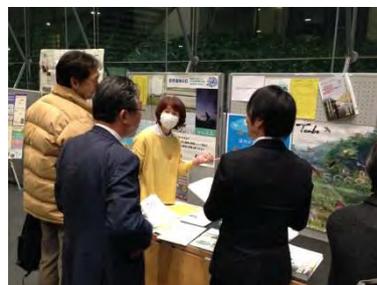
さて、このにじゅうまる関係者が全国から一堂に集まるパートナーズ会合が2年に1度開催されています。2016年2月20～21日、名古屋大学キャンパス内の野依記念学术交流館で、その第2回会合「にじゅうまるCOP2」が開催されました。初日は全体会合と記念フォーラムが、2日目には8つの分科会が行われ、全体会合約90名、記念フォーラム約110名、分科会約130名が参加しました(参加者数は主催者発表)。

ラムネットJは、分科会7「田んぼ10年プロジェクトの歩みと水辺の生きものがつなぐ田んぼと干潟」をコーディネート、8人の発表者をはじめ、約30人が参加しました。田んぼ10年の「いままで」を振り返るとともに、2020年までの“こ

れから”について活発に意見が交わされました。

そこで確認されたのは、18の水田目標のうち、「1-1:水田の生物多様性の価値を普及する」がもっとも重要であること、生物多様性に配慮して作られた作物・商品が評価され、売れるようにするためには“まなざしを変えた”取り組みをすることと、作る人/売る人/買う人をつなげる仕掛けが有効であることでした。そして、にじゅうまるプロジェクト全体では「2020年までに2020宣言」を目標にしていますが、そのうちの500宣言を田んぼ10年プロジェクトから登録することが目標になりました。

この分科会でとくに好評だったのは、ランチタイム「田んぼと干潟のおいしい出会い～湿地の賢明な利用でごちそうさま～」の企画でした。これは“湿地の賢明な利用”の大切さをわかりやすく伝えるために、田んぼ・川・干潟という一次産業にとって重要な湿地のつながりを、“たべもの”を通して体感してもらおう試みです。提供されたのは、ラムサール登録湿地の蕪栗沼(宮城県)周辺の“ふゆみずたんぼ”で栽培された米でつくられたおむすびと、ラムサール登録湿地の荒尾干潟(熊本県)で栽培・製造された海苔、そして開催地愛知県・三河湾産アサリの佃煮と渥美半島のタクワンなど。それぞれの食材は存在感があり、しかし絶妙にまとまったおいしさで、まさに干潟のつながりが体感できる逸品でした。



展示場での説明



分科会で田んぼ10年のふりかえり



おにぎりパワーでみんな笑顔 にじゅうまる HP より



ユネスコが行っている GREEN CITIZENS PROJECT (GCP)という取り組みがあります。このGCPのもとで、世界で8つの先進的な持続可能な開発のための教育 (ESD)の取組 (Flagship Project) が選定されました。その一つに Rice Project を最も先進的に行っている、大崎市田尻地域の大貴小学校での、「稲作の手法を通じた環境教育」が選ばれました。これまで、NPO 法人田んぼは、環境教育の軸として、総合学習の時間にふゆみずたんぼ実験田において大貴小学校5年生に対する環境に配慮した農業体験学習の支援を行ってきました。また、環境教育支援事業として、大崎市古川第四小学校と“おおさき生きものクラブ”の活動支援を行っています。ここでは、身近な環境である田んぼの生きもの調査や他地域の子どもたちとの交流をはじめ、学習の講師、企画・運営を行っています。

大貴小学校の農業体験学習では、種まきから始まり、人間代掻き、田植え、竹ぼうき除草、稲刈り、脱穀、唐箕による選別、同時に季節毎の田んぼの生きもの調査を行い、最後は実際に自分たちが作ったお米を感謝しながら味わう収穫祭まで、年間を通しての学習を実施しています。

「地域の未来は地域の子どもたちが創る」という考えを基に、環境学習では生きものと田んぼのつながり、人と人とのつながりの大切さを伝え、体験学習では子どもたちの自主性と協調性を尊重しながら、印象に残る農作業体験を行っています。環境学習で重視していることは生きものや自然に実際にふれ

ることによって生まれる、子どもたちの感性を大切にすることだと考えています。その感性を引き出すことができる「田んぼ」は素晴らしい学習フィールドです。「田んぼ」はお米を作るだけでなく、たくさんの生きものを育てています。さらに御田植祭をはじめとする様々な伝統や文化を伝える場でもあり、どろんご遊びや虫取りなど、子どもたちの大切な遊びの場でもあるのです。子どもたちには「田んぼ」を通じて様々な人や生きものに出会い、豊かな心を育ててほしいと思っています。

昨年の12月、田んぼの年間学習のお礼として大貴小学校の子どもたちが企画した感謝の会に招待されました。司会進行も子どもたちが行い、余興では本格的なダンスや楽器の演奏を披露してくれました。会の終わりには、子どもたちひとりひとりから感謝の作文を読んでいただき、まさにプライスレスな贈り物でした。感動のあまり涙がこぼれ、この活動に携われたことへの感謝と喜びをかみしめました。

ジブリ映画、「千と千尋の神隠し」のなかにこんなシーンがあります。千尋の気を引くためにカオナシは手のひらから溢れるばかりの砂金を出します。それに対し、千尋はこう言うのです。「私が欲しいものはあなたには絶対出せない。」と。本当に大切なものは、お金では生み出せないように思います。田んぼの環境学習は里山の環境保全、生物多様性向上、心の豊かさを育むなど無限の可能性を秘めていると考えます。このような環境教育の活動が各地に広まり、心豊かな、子どもたちの笑顔溢れる「田んぼ」が発展することを私は願っています。

※ユネスコ GREEN CITIZENS PROJECT HPに大貴小学校での、「稲作の手法を通じた環境教育」の活動と活動の動画が公開されました。ぜひご覧ください。(URL 参照)

<http://en.unesco.org/greencitizens/stories/using-rice-farming-methods-teach-environmental-protection>



観察会



竹ぼうき掃除



## 各地の活動紹介

登録会員の活動をご紹介します。

### 埼玉県

#### NPO 法人 見沼保全じゃぶじゃぶラボ 中島望

私たちが市民田んぼの活動をしている「見沼田んぼ」は、埼玉県の浦和や大宮の大都市圏からすぐ近くにある、田んぼなどの農耕地をはじめとした一大緑地空間です。全体の広さは1200ヘクタールという巨大さです。開発が保全かという論争の時代を経て、守られてきた場所ですが、近年この地域でも田んぼ面積は縮小してきています。

そんな現状を何とかしたい、龍神の住む沼と言われた湿地の環境、多様な生きものが生息できる田んぼを復活させようという思いで、機械がなくても、市民で取り組める、不耕起、ふゆみずたんぼの有機稲作に取り組んできました。

田んぼや湿地、葦原等の水辺環境を保全することで地域の固有な種が生きていけます。そのために、さいたま市の生きもの調査と連携して、チョウとトンボの調査を実施していま

す。生きものからの視線で地域の自然を見ていくことができるようになればと考えています。

田んぼ作業の中では、カルガモに苗を倒されたり、スズメにお米を食べられたり、お米作りには、そうした生きものとの出会いもあり、良いことばかりではありません。稲作と生物多様性をどう両立させていくのかも課題です。

地域と生きものに開かれた田んぼを目指してこれからも活動していきます。



田植え作業



# 水田部会からのお知らせ

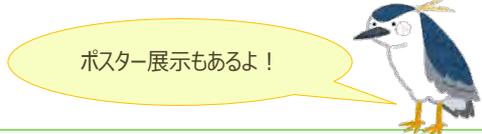
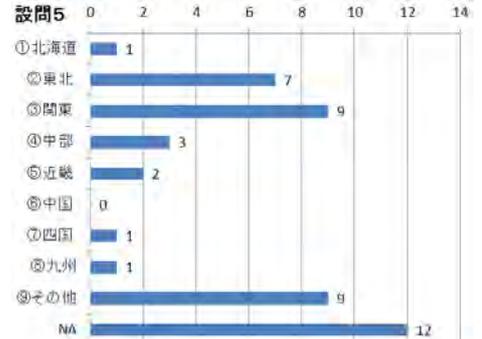
## ◆田んぼ 10 年プロジェクト行動計画実施状況についてのアンケート集計結果◆

2015 年末、ラムサール・ネットワーク日本は、2013 年より「田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト行動計画」の参加者（団体・個人）を対象に、アンケート調査を実施しました。生物多様性の 10 年の中間振り返り時期であり、各プロジェクトの活動の進捗状況を確認し、今後の活動拡大・促進にその意見を役立てるため、実施したものです。回答者数が半数以下であったために、全体を把握することは困難ですが、寄せられた回答をもとに、結果を以下に簡単にまとめます。

アンケート調査実施期間：12 月 8 日（木）に一斉発送、1 月 15 日（金）までに回収  
配布数：91 件のうち、得られた回答数：41 件（回収率：45%）

- ・ **設問 1**：回答したほとんどの団体が、水田目標や愛知ターゲットに近づくための行動がほぼ出来ていた。
- ・ **設問 2**：活動してみて良かった点については多い順に、・環境について考えるきっかけになった・同じ目標に向かう仲間が増えた・地域づくりに役立った・団体のイメージアップにつながったとなっている。
- ・ **設問 3**：活動時に感じた課題としては、資金や人手、活動時間の不足・周辺に拡げられなかった・一般への普及にはまだなっていないなどが出されている。
- ・ **設問 4**：事務局(ラムサール・ネットワーク日本)にしてほしいこととして、・参考になりそうな事例の紹介・他の参加者との交流の機会の提供が多数。そのほかの意見として ・ホームページリンク先の充実・マスコミへのアピール ・大学の先生に指導してほしい・広報などによる側面支援 ・国、民間企業の助成情報共有及び協働取り組みのコーディネートがあげられている。
- ・ **設問 5**：田んぼ 10 年プロジェクトの地域集会の開催希望地としては関東、東北、中部、の順で希望が多かった。

以上のような意見はどれも、活動現場からの重要な意見であり、皆様の活動がより充実し、楽しめるものになるように、これから田んぼ 10 年事務局が強力に取り組まなければならない課題です。国連生物多様性の 10 年の後半期、事務局の活動にこれらの声を確実に反映していきたいと考えます。アンケートに回答されたみなさま、ありがとうございました。引き続き田んぼ 10 年の仲間を増やす活動にご協力下さるようよろしくお願いします。



### ■田んぼ 10 年プロジェクト 新規参加者のご紹介

No.	都道府県		参加者名
91	千葉県	団	土の学校
92	滋賀県	団	たかし有機農法研究所
93	滋賀県	個	萩原志貴子
94	愛知県	団	松原秀臣
95	香川県	団	生活協同組合コープ自然派しこく
96	茨城県	個	嶺田 拓也（研究者）

2016 2 月末時点

### 田んぼ 10 年プロジェクト全国集会にご参加ください

日時：3 月 13 日 13：00～18：00

場所：A P 秋葉原（秋葉原駅 5 分）

詳しい情報は同封の案内をご覧ください。

たくさんの皆様のご参加をお待ちいたします。



#### 連絡先/事務局



ラムサール・ネットワーク日本

info@ramnet-j.org

FAX:03-3834-6566



田んぼ 10 年プロジェクトは、にじゅうまるプロジェクトに参加し、国連生物多様性の 10 年日本委員会の連携推進事業に認定されています。



このニュースレターは、平成 27 年度独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しました。

